

キューピッド & プシユケ



はなし か え か ひと たはた みつえ
お話を書いて、絵を描いた人：田畑サンドーム光恵

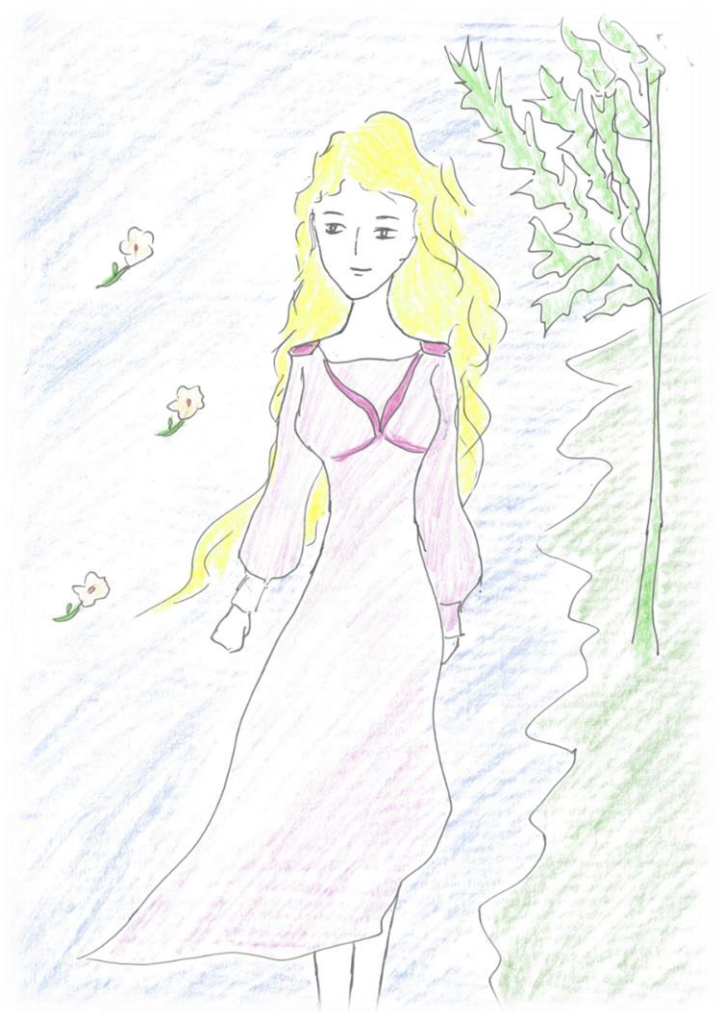
はなし つく てつだ ひと にしお さちこ
お話を作るのを手伝ってくれた人：西尾佐知子

ヴィーナスはギリシャの女神様
です。

美しいことで有名でした。

みんなが「ヴィーナスは誰より
も美しい」と言いました。

ヴィーナスも、自分が世界で
一番美しいと思っていました。



でも、人間の国にも美しい娘がいました。

ある国の王様には三人の娘がいました。そのうち一番下の娘
がとても美しいと評判になり始めました。その娘の名前はプ
シュケです。



ひとびと
人々はだんだん「プシュケは
ヴィーナスより美しい」と噂
をするようになりました。

そして、その噂はヴィーナス
の耳にも入りました。

ヴィーナスはその娘に腹をたてました。

「私よりも美しい者はいない。私が一番美しい!!!」

ある日ヴィーナスはプシュケを見に行きました。そしてびっくりしました。

「この娘はなんて美しいんだろう。。。」

プシュケの美しさを見て、ヴィーナスはもっと腹を立てまし

た。神殿に帰ってヴィーナスは考えました。

「プシュケがいたら、^{わたし} ^{いちばん}私は一番
^{うつく} ^{もの}美しい者じゃなくなる。どうし
たらいいんだろうか。」



そこでヴィーナスは^{わる} ^{けいかく}悪い計画を
^{かんが}考えました。そして、^{むすこ} ^よ息子のキューピッドを呼びました。

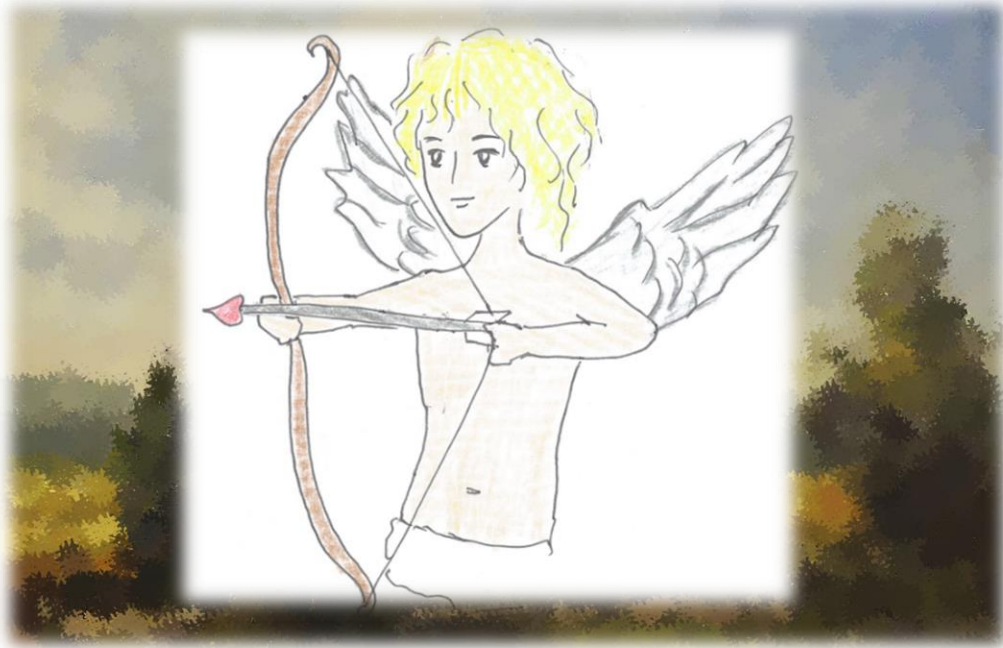
「キューピッド、^{にんげん} ^{くに}人間の国にプシュケという娘がいる。その
^{むすめ} ^{わる} ^{むすめ}娘は悪い娘だから、^せ ^{かい} ^{いちばん} ^{みにく} ^{おとこ} ^{けっこん}世界で一番醜い男と結婚させなさい。」

キューピッドはヴィーナスの^{めいれい} ^き命令を聞いて、プシュケのいる国
^いに行きました。

実はキューピッドは特別な^{とくべつ} ^や ^も矢を持っていました。その矢に^やあた
^{ひと} ^{いちばん} ^{さいしょ} ^み ^{ひと} ^すった人は、一番最初に見た人を好きになってしまいます。

キューピッドは人間の国に行って、プシュケを探しました。

プシュケを見つけて、キューピッドは特別な矢を射ようとした。



でも、プシュケがあまりにも美しいので、キューピッドは手がすべってしまいました。そして、その矢で自分の指を傷つけてしまいました。

さあ、大変です。特別な矢で自分の指を傷つけてしまったキューピッドは、プシュケに恋をしてしまいました。

そして、キューピッドは今すぐプシュケと結婚したいと思いま
した。そこで、キューピッドはプシュケの父親に会ってこんな
嘘を言いました。

「プシュケをあの山の上に連れて行きなさい。そこには怖い化
け物がある。プシュケはその化け物と結婚しなければならな
い。これは、神様の命令だ！」

プシュケの父親は可愛い娘が可哀想でしたが、神様の命令なの
で、仕方なくプシュケを山に連れて行きました。

さて、プシュケが山の上に着くと、そこにはとても美しい城が
ありました。そして、美しい音楽が聞こえました。プシュケは
自分が結婚しなければならない怖い化け物を待ちました。

夜になって、あたりが暗くなりました。プシュケは何も見えま
せんでした。するとどこからともなく、優しい声がしました。

「プシュケ、お前は私と結婚するのだ。それは、神様の命令
だ。」

「わかりました。でも、私にはあなたの顔が見えません。」

「お前は私の顔を見なくてもいい。私のことを信じて愛しなさい。」

プシュケは自分が結婚した夫は、怖い化け物だと思っていました。でも、夫はとてもやさしかったので、プシュケはとても幸せでした。夫はいつも暗い夜になってからプシュケに会いに来ました。ですから、プシュケは夫の顔を見ることができませんでした。

プシュケが夫だと思っていたのはキューピッドです。そうです！キューピッドは自分がプシュケと結婚したいので、嘘をついていたのです。

時が経ちました。プシュケは好奇心が強くなってきて、どうしても夫の顔を見たいと思うようになりました。

ある夜、プシュケは夫が寝ている時ランプに火をつけました。
そして、ランプを夫の顔の近くに持っていきました。

プシュケはびっくりしました。

怖い化け物だと思っていた夫がとても美しかったからです。

あまりにもびっくりしたので、プシュケはランプの油をこぼしてしまいました。その熱い油はプシュケの夫の肩にこぼれてしまいました。プシュケの夫（キューピッド）は、びっくりして目を覚ましました。

「プシュケ、私の顔を見たんだな！『私を信じろ』と言ったのに、お前は私を信じなかった。私を信じない妻を愛することはできない。」

そう言うと、キューピッドはプシュケを置いてどこかへ行ってしまいました。キューピッドが行ってしまうと、プシュケのいた美しいお城は消えてしまいました。

キューピッドは母であるヴィーナスの神殿に帰りました。キューピッドを見ると、ヴィーナスはとても怒りました。キューピッドが自分の命令に従わず、プシュケと結婚していたからです。そして、キューピッドを高い牢に閉じ込めました。

さて、高い寂しい山の上でプシュケは一人になってしまいました。プシュケはキューピッドを信じなかったことを後悔していました。そして、もう一度キューピッドに会って許してもらいたいと思いました。そこで、プシュケはキューピッドを探そうと思いました。

プシュケはあちらこちらに行き、やっとキューピッドの母ヴィーナスの神殿を見つけました。そして言いました。

「ヴィーナス様、あなたの息子キューピッドはここに帰ってきていますか。もしそうなら、どうか会わせてください。」

ち か せ かい い と ちゅう こわ
地下の世界に行く途中、たくさんの怖いことがおこりました。

でも、プシュケは諦めませんでした。そして、ペルセポネから

うつく みず はこ い ちじょう も かえ
美しくなる水をもらって、それを箱に入れて地上に持って帰
って来ました。

もうすぐヴィーナスの神殿に着くという時、プシュケはまた好

きしん ま はこ あ はこ
奇心に負けて、その箱を開けてしまいました。プシュケが箱を

あ しゅんかん なか ねむ まほう で まほう
開けた瞬間、中から眠りの魔法が出てきました。その魔法にか
かってプシュケはそこにたおれてしまいました。

じつ こう きしん つよ はこ あ
実は、ヴィーナスは、好奇心が強いプシュケならきっと箱を開

ねむ まほう おも
けて眠りの魔法にかかるだろうと思っていたのです。

しんでん ろう さいしよ
ヴィーナスの神殿の牢にいたキューピッドは、最初はプシュケ

はら じぶん しん
に腹をたてていました。プシュケが自分のことを信じないで、

じぶん かお み あい
自分の顔を見たからです。でも、プシュケを愛していたので、

プシュケを助けなければいけないと思いました。そして、牢から抜け出して、急いでプシュケを助けに行きました。

キューピッドは神殿の近くにたおれているプシュケを見つけると、眠りの魔法を振り払って、それを箱の中に戻しました。そしてプシュケに言いました。

「プシュケ、この箱を私の母ヴィーナスの所に持って行きなさい。そしてすぐに帰って来なさい。」

プシュケがヴィーナスの神殿に行っている間、キューピッドはゼウスの神の所に行きました。そして、ゼウスに自分たちをヴィーナスの怒りから助けてくれと頼みました。

ゼウスはキューピッドとプシュケのことを可哀想だと思って、二人を助けることにしました。そして、二人が幸せに結婚できるようにしてくれました。また人間だったプシュケに不死の命をくれました。

ゼウスのおかげで、キューピッドとプシュケは永遠に幸せに暮らすことができました。



キューピッドは「愛」を意味します。そして、プシュケは「心」を意味します。このお話はどうやって「愛」と「心」が結ばれたかというお話です。「愛」には「信じること」が大切だということも教えてくれます。

また、プシュケは話の中で二回好奇心に負けてしまいますね。それは、人間の「心」が好奇心に弱いことを表しています。